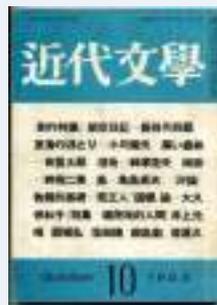


作家・小川国夫は、東京大学在学中の昭和28年に「東海のほとり」を『近代文学』に発表し、文壇デビューを飾ります。その後フランスに留学し、滞在中に地中海諸国を単身旅行しました。この経験は、後の小川文学の素地のひとつとなりました。

昭和31年に帰国した後、小川は東京大学に復学せず創作活動を再開しました。翌年には文学仲間と同人誌『青銅時代』を立ち上げ、また同年私家版『アポロンの島』を刊行するなど、多数の作品を発表します。しかし、その作品群が陽の目を見るには、長い月日を要しました。

本展では、小川の青年期（概ね20代から30代）の経験や出会った人物、それらの経験を元にした作品などを御紹介いたします。文学青年であった小川がどのように活動し、また交流関係を築いていったかをご覧ください。

青年期の文学活動の舞台



『近代文学』1953年10月号



『青銅時代』第1巻第1号



私家版『アポロンの島』

フランス留学と地中海諸国単身旅行



旅行鞆（地中海諸国旅行時に使用）



フランス帰朝記念風呂敷

文学者たちとのつながり



立原正秋・小川国夫往復書簡撰『冬の二人』（限定版）

小川 国夫 おがわ くにお（1927-2008）

静岡県藤枝市生まれ。病弱だった少年期にキリスト教にふれたことや、フランス留学時にヨーロッパ各地を旅行したことなどが、後の作家形成に深く関わったものと考えられている。

簡潔な文体で光と影の原初的光景の中に人間の行為を映し出した秀作を発表し、「内向の世代」を代表する作家と見なされている。また、能などの古典芸能を題材にした作品のほか、画家・ゴッホの美術研究も知られており、自身でも絵を描くなど、芸術にも造詣が深い。

著書に『アポロンの島』、『生のさ中に』、『ある聖書』、『試みの岸』、『悲しみの港』、『逸民』、『弱い神』などがある。

関連イベント／ミュージアムコンサート

小川国夫が親しんでいたシャンソンのナンバーなどを、美しいギター＆ボーカルでご鑑賞ください。

とき／4月23日（土）午後2時～

出演／Hiddy & Satty

（静岡市を中心に活動するデュオ。アメリカのオールドジャズを中心に幅広いジャンルの音楽を演奏。）

ところ／文学館講座学習室

定員／60名（先着順）

申込み／不要・直接会場へ

参加料／無料



焼津市・小川港にて（昭和37年・小川国夫35歳）